

グローバル経営



南武

南武（横浜市金沢区、野村伯英社長、045・791・6166）は、金型用の油圧シリンダーや鋼板巻き取り用のロータリージョイントなど特定分野で高い技術力を有する。日本のほか、タイや中国に生産拠点を構え、9月には技術

供与先の米国企業との提携を強化した。野村社長は「どんな国でも大切なのは人を大切に作る経営。熟練工が育つと不良が減り、その結果、利益が出る」と話す。
(南東京支局長・安久井建市)

タイ・中国で熟練工育成

油圧シリンダーを地産地消

「メーカーがたくさんあつて需要も多い。しかも同業者がいない」（野村社長）。南武が初めての海外展開の地として選んだのはタイだった。2002年に進出し、12年には移転・拡張。自動車産業向けにアルミダイカスト金型の需要が増え、主力製品である金型用油圧シリンダーの需要も拡大している。

しかし進出当初は苦勞の連続だった。工場の作業員を雇うために10人面を導入するなど意欲向上の仕組みも構築。10年以上の勤務者には日本への研修旅行という特典を与えた。南武への在籍が長いほどメリットがあると意識を植え付けた。

リーマン・ショック後にはタイでも景気が落ち込んだが、人員削減はしなかった。また、タイでは12年度に最低賃金が倍になるなどの賃金上昇が、産業界の一部に混乱をもたらししたが、同社はもともと賃金水準が高かったため、影響はなかったという。努力の甲斐もあり、タイ工場では熟練工が育ち、今では権限委譲を徐々に進めている。

「中国の立ち上げでは惜しみない愛情を注いだ」。野村社長はタイで苦勞した経験から、中国では工場設立当初から多額の資金を入れ、本社からの技術指導も実施したと話す。

中国には10年に進出、金型用の油圧シリンダーなどを生産している。100%地産地消だが、やはりキーになるのは人材だ。立ち上げ時に作業員の面接で重要視したのはその人の持つ技能より性格。「技能は後で教えれば良い」（野村社長）と割り切った。欧米系のように成果主義ではなく、日本企業のように家庭的な環境を望む人を雇った。

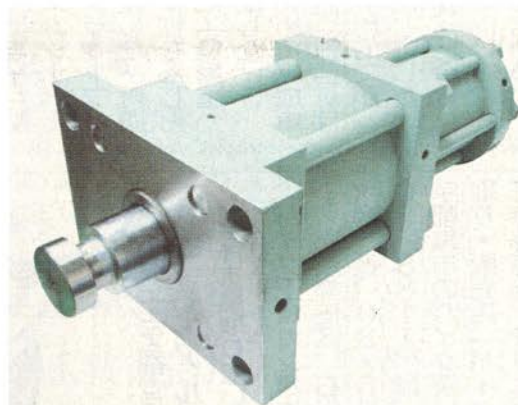
南武が9月末に提携強化を打ち出した米ファイブスター・ハイドロリックス（インディアナ州）も同じように、職人的な熟練工が多



「人を大切にする経営」をどの国でも実践している（本社工場）

南武が9月末に提携強化を打ち出した米ファイブスター・ハイドロリックス（インディアナ州）も同じように、職人的な熟練工が多

職場環境の整備 推進



▲タイでは自動車産業向け金型用油圧シリンダーの需要も拡大

級の人材には恵まれたという。中国からの留学生が南武の本社に入社して力を発揮。現地の大学在籍時の学友を雇い入れるなど、上海大学を卒業した日本人スタッフとともに大活躍している。タイや中国など必要のある地で生産するのは製造業の定石だが、それだけでは工場運営はうまくいかない。細かな加工も器用にこなす熟練工の存在が欠かせない。長く勤めてもらうための環境整備が必要になる。

南武が9月末に提携強化を打ち出した米ファイブスター・ハイドロリックス（インディアナ州）も同じように、職人的な熟練工が多